受付番号　第 *2020027* 号
承認日：2020 年 9 月 1 日

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

定期的な身体機能評価プログラムによる血液透析患者の方の身体機能・運動習慣・セルフエフィカシーの推移

2. 研究責任者(当院)

所属：リハビリテーション室
氏名：山口智也

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし
代表名：なし

3. 分担研究者

所属：腎臓内科　　氏名：藤井隆之
所属：ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ室　氏名：白井 智裕, 加藤木 丈英, 三嶽 侑哉, 島袋 匠, 知識 愛花, 鈴木 舞花
所属：透析センター　氏名：石村和美, 椎名由美子, 吉田康代, 井上利紗, 永田愛子, 栗本洋子, 松信和奈

4. 研究対象者

2016 年 06 月 1 日から 2026 年 4 月末までの間、聖隷佐倉市民病院に外来通院し，身体機能評価プログラムに参加，または参加される血液透析患者の方

5. 研究の必要性

我が国の慢性腎臓病患者数は 1330 万にも及んでおり，成人人口の約 13%である．その内，透析を実施している患者数は 30 万人を超え，国民 400 人に 1 人の割合にまで高まっている．超高齢社会を反映して透析患者も年々高齢化し，2018 年末の透析人口全体の平均年齢は 66.8 歳である．透析導入患者を年齢層で見てみると，男女とも 75～79 歳で最も多い．血液透析患者の方は血液透析導入後早期に体力低下を自覚しており，身体能力を同年代健常者と比較すると筋力は約 7～8 割，関節可動域は約 8～9 割，歩行速度は約 7 割，身体活動量は健常者の約 4 割，運動耐容能は約 5 割にまで低下している．米国の調査でも，35.1%にあたる透析患者が殆どいかなる身体活動や運動も行っておらず，非運動群の 1 年後の死亡率は運動群の 1.62 倍であったと報告されており，血液透析患者の方に対する運動療法は重要であると考えられる．また，血液透析患者の方の日常生活動作能力の低下は導入 1 年目で最も大きく，透析日の安静時間（透析中を除く）は非透析日に対して有意に長く，導入 1 年未満の患者が最も安静時間が長い．週 3 回 4 時間の透析では 1 透析あたり約 5 時間の床上安静が必要となり，5 時間×年間 156 回＝780 時間，32 日間に相当する．その間，臥位や座位での安静状態が続くことで，患者は退屈感やストレスを強く抱いている．血液透析患者の方は，高齢化や透析の長期化から他疾患を併発しやすい状況にあり，さらに不活動の状態が持続することで廃用症候群を呈し，日常生活動作能力が低下する可能性がある．そのため，血液透析患者の方に対して，定期的な身体機能プログラムを行い，身体機能が低下している血液透析患者の方に腎臓リハビリテーションを行うことは，上記合併症を予防し，健康寿命の延伸を目指す上で重要である．

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

本研究は，一般的に受け入れられた科学的原則に従い，科学的文献その他科学に関連する情報源及び十分な実験に基づき，専門的知識及び臨床経験が十分にある者が身体機能測定と透析中の運動療法を行うため，危険性は極めて低いと思われる．本研究を行い，現在の身体機能の把握が可能となり，血液透析患者の方に運動を継続してもらうことにより身体機能の改善が実感でき，合併症が予防可能であることを伝えることができると予測される．研究の成果は医学の発展に寄与すると考えられ，この研究の解明された成果が社会へ還元されることにより，当該研究に協力した参加者もその社会の一員として，この研究によって得られた最善の予防，診断および治療を受けることができることが期待できる．

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151（代表）
担当者氏名：山口智也，三嶽侑哉
対 応 時 間：8:30－17:00